

沖縄軍事日常化に危機感

与那国島で沿岸監視隊が配備

された2016年頃から、徐々に危機感が高まっています。

ただ、軍拡の危機感が沖縄全体に広がったのは、安保3文書の改定以降だと思います。

大軍拡の問題は、戦争によって生活と命が脅かされる危機感だけではありません。訓練激化による騒音などの影響に加え、軍事に関するものが、住民の生活の中でも日常的に目撃されるなど、田舎見えた変化が起きるはずです。

日本の憲法はそもそも軍事力を否定しているはずなのに、生活の中に軍事の姿が当然のよう

に浸透してしまっているのは、國民が軍事力を監視し、警戒することができなくさせてしまう危険を感じます。

高良 沙哉さん

沖縄大学教授(憲法学)

安保3文書の中で書かれている國民保護についても、沖縄では非現実的な話だと受け止められています。戦争になつたときは、海に囲まれた沖縄での避難は非常に困難です。

石垣島で農業や畠庭をやっている人たちに話を聞くと、これまで育ててきた牛や作物を放つて自分たちだけが逃げるとはできないといいます。物理的な避難の困難さに加えて、生活に根ざした問題があるのが現実で

日本は軍事力を持たないと明記した憲法を持っています。対立をあおるのではなく、憲法を生かし、日本の非軍事的な存在意義を他の国々に示す外交をしていくべきです。

日中平和友好条約を起点に中国との関係を考えいくなど、日本がやるべき課題は多々あります。ただ、いまの政治をつくり出したのは、私たち國民一人ひとりであります。戦争を回避するために、私たち自身の行動も問われていると思います。

(聞き手 田中智巳)



田中 大軍拡あり